

## 第6回「スポーツ障害」講習会参加報告

4月17日(日)名古屋医健スポーツ専門学校にて、(一社)愛知県鍼灸師会主催の第6回「スポーツ障害」講習会が開催されました。

### 第1部

小森田昭浩先生による「手首・肘関節のスポーツ傷害」についての解説をしていただきました。急性期、亜急性期を問わず、レントゲンを撮っていないで骨折の疑いが少しでもあれば、X-P検査を勧めることが必要。

外傷:骨に異常がなければ受傷後3日間は必ずアイシングを1日1回行う。

障害:骨に異常がない場合は肘、手首の軽いトレーニングを始める。

### 亜急性期

外傷:骨折の治癒や炎症が治ったら、患部に単刺、置鍼、パルス通電、筋トレを行う。

障害:筋トレは徐々に負荷を上げていく。

第2部はホワイトテープとファンクショナルテープを用いて二人一組で肘、手首のテーピング実技を練習しました。

### 第2部

「医療従事者として知っておくべき病気の知識」と題し、

四日市羽津医療センター臨床検査技師の服部順一先生の講義がありました。

日本人に多い疾病の高血圧、糖尿病、がん、について基礎知識と臨床データの診方を教えて頂きました。特に糖尿病の診断基準についての解説や、患者さんから検査データを見せられて相談された場合の対応の仕方は、明日からの臨床にすぐ使える有意な内容でした。

### 第3部

「特殊鍼法～頭鍼、皮内鍼など～」と題し、

本会理事の高橋日出子先生の実技を交えた解りやすい講義でした。

皮内鍼の鍼先の方向によって効果が違うこと、耳ツボの臨床応用、頭鍼の取穴の仕方等のモデルを使った解説はとてもわかりやすく、臨床に行き詰った時に応用できる技術として知っておくとよいと思いました。

学術部 長岡 亨

